釧路湿原自然再生協議会 第20回湿原再生小委員会

資料 5

# 広里地区自然再生事業について

平成30年6月15日 環境省釧路自然環境事務所

# 【目次】

- 1 広里地区の概要
- 2 今までの経緯
- 3 今年度の業務目的
- 4 今年度の実施内容(1)
- 5 今年度の実施内容(2)

## 1 広里地区の概要

広里地区は湿原再生手法を検討する場

#### ハンノキ林

#### 現状

1970年代頃ハンノキ林が急激に拡大

#### 原因

地下水位の低下・安定下、 1967年の湿原火災

### 旧農地区域

#### 現状

1960年代後半以降、湿原植生の劣化

#### 原因

旧雪裡川の分断、農地造成による水位低下

#### 周辺環境

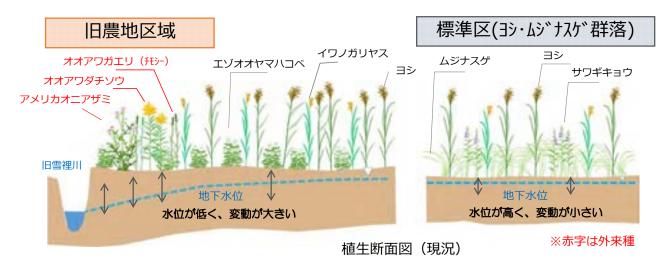
旧農地区域の対岸:ダイコン畑

旧農地区域に隣接する旧雪裡川: タンチョウが利用





# 旧農地区域の目指す姿 (ヨシ・ムジナスゲ群落)



旧農地区域:地下水位が低く、変動大

標準区: 地下水位が常に高く、変動小

地下水位状況の違い

≒ 植生の違い

地下水位を**安定的に上昇**させる (ヨシ・ムジナスゲ群落)

## 2 今までの経緯(1)

### ハンノキ林の取り扱い検討

#### 調查·検討結果

- ① 将来的には拡大しないで、 衰退する可能性あり
- ② 生育の抑制には「伐採後の 数年間の萌芽切除」が有効 である

#### 取扱い方針

ハンノキ林の状況を把握しつつ、 問題が認められた場合には 伐採等を再検討する



#### 旧農地区域の再生検討

#### 調查·検討結果

① 湿原植生は地下水位の安定的な 上昇と関連

#### 再生方法

旧農地区域の水位を安定的に 上昇させる

## 事業実施にあたっての留意事項

- ① 隣接する河川と対岸のダイコン畑に 影響を与えない施工が必要
- ② タンチョウの生息に影響を与えない 施工が必要

## 再生方法を引続き検討

# 2 今までの経緯(2)

## 検討結果

- 遮水壁設置を検討した結果、効果(水位上昇の範囲)は限定的・不確実
- より深くまでの遮水壁設置は不可能
- 現時点における旧農地区域の遮水壁の設置は困難
  - ⇒旧農地区域の検討を終了

# 今年の方針

- これまでの調査・試験・検討のデータや経験を 釧路湿原や他の湿原再生へ還元していく

## 3 今年度の業務目的

## ● 業務 1 **事業成果のとりまとめ**

<u>目的</u> 事業の実施・検討の中で得られた知見は、他の再生 事業へ活用することが期待される。このため、収集された知 見の整理ととりまとめを行う。

## ●業務2 現状把握調査

<u>目的</u> 植生の再生を検討してきた旧農地区域(掘り下げ試験区を含む)において、検討の終了にあたり、水環境及び植生の現状を調査し、事業開始時からの変化の有無を把握する。

# 4 今年度の実施内容(1)

## ●業務 1 **事業成果のとりまとめ**

# ・検討項目から得られた成果

例) ハンノキ林の抑制手法、農地に隣接する地区の植生を 回復させる手法と課題

# ・調査観測データ

例) 地下水位、植生、地質

# ・釧路湿原での調査実施に関する成果

例)調查手法、留意点

# 4 今年度の実施内容(2)

## ●業務2 現状把握調査

## 植生調査

掘り下げ試験区を含む旧農地区 域と標準区において、過去の データと比較できるプロットを 再現し、群落組成調査を行う。

## 水位観測

掘り下げ試験区を含む旧農地区 域と標準区において、過去の データと比較できる観測孔を再 現し、水位観測を行う。

